

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200376		
法人名	株式会社トウルーケア		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	埼玉県川口市大字安行吉蔵271-1		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修への積極的参加により、知識、技術向上に努めている。 ・利用者様を第一に考えた介護サービスの提供。 ・清潔感あふれる環境作り。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「入居者第一」を念頭に、「全職員がすべての利用者についてわかること」を目指し、職員の気づきややる気による意見・提案が積極的になされ、事業所のサービスの向上にも活かされている。職員間のフロア移動も行われ、それにより職員のレベルアップと協働体制作りがなされ、「一緒に楽しく」の理念に沿ったケアが実現されている。</p> <p>・ご家族のアンケートでも、「ケアマネジャーさん、ヘルパーさんが細かいところまで気をつけていて安心できます」、「体調に気をかけてくださり、いつもと違うとき早めに連絡をいただき、私たち家族が安心して生活ができていて感謝しています」などのコメントが寄せられ、職員のきめ細やかな対応に高い評価が得られている。</p> <p>・目標達成計画の達成状況については、町内会長や民生委員、家族の協力により、運営推進会議の開催が実現されたことから、目標が達成されている。また、課題の食事について、家族にも内容を知っていたく取り組みや地域との合同避難訓練の開催など継続的に取り組まれ、成果に結びつくよう努められている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア理念を全職員が共有、理解を図り、理念にそった介護サービスの提供に努めております。	利用者を「個」にしないよう気を配り、フロアでみんな一緒に過ごしていただけるよう理念に基づいたケアが実践されている。職員の「気づき」と「やる気」が大切にされ、利用者の立場に立った取り組みに努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には少ないように思いますが、毎年夏の町内会盆踊りに参加している。	地域の夏祭りで子供神輿への協力を行ったり、毎月の町内の清掃活動にも参加し、地域へのPRにも努められている。町会長とも顔なじみとなり、様々な協力がいただけ、地域の一員として受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加などを通して住民の方々のご理解とご協力を頂いていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は施設関係者、町会長さんなどを招いて開催しています。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター、食料業者などが参加し、行事や現状の報告のほか、「スウィーツク」などが実施されている。また、中学生の夢ワークを受け入れた時には、学校からの感想や意見を伺うなどの取り組みもなされている。	定期的な開催を実現するため、防災訓練や納涼祭など事業所の行事と同時に開催するなどして、参加者が時間を取りやすい環境作りへの工夫を図られることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設は生活保護での入居者様が多いので川口市役所生活福祉課との連絡は特に密です。	担当窓口や福祉課とは日常的に利用者についての様々な相談がなされ、連携が図られている。市の研修などには職員が積極的に参加し、事業所の運営にも反映されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会を月末に開催。全職員が議事録を閲覧し防止に努めています。やむを得ない場合は書面にて同意を得ています。	身体拘束ゼロ推進会議を中心に、特に言葉による精神的な拘束や虐待に対しては、強く注意されるなどの取り組みがなされている。ユニット間を利用者が束縛なく自由に動かれ、将棋やトランプなどを楽しまれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の使い方によっては、精神的、心理的虐待を起こす要因にもなると思う。施設でも、再学習、理解も兼ねて研修の機会を作って頂きたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様もいますが、全職員が制度を理解するためにも施設内での研修の機会を設けて欲しいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、管理者が行っています。その際、ご家族の方には十分な説明を行って、理解と納得を図っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二カ月ごとにご家族の方へ手紙を送付しております。又、面会時などに意見、要望等に応じる時間も設けております。	利用者からは日常的な会話や夜間の個別の相談などを通して、家族とは面会時の会話を大切にされ、利用者の現況、家族の思いなどをお互いが伝え、理解することでサービスの向上にも活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うカンファレンスに於いて、意見、改善案を提示。全職員が一致のうえ、日々の業務を行っています。	「気が付いたらなんでも話そう」をモットーに、職員の意見や提案は出しやすい環境で、事業所の運営にも反映されている。また、運営推進会議の議題作りへ参加するなど、役割に応じた改善・提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数による昇給制度がある。取得資格、役職については手当も付いてくる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修への参加、施設内、外部研修参加によって、知識、技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などで交流する機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状況把握(アセスメント)、モニタリングシートを基に日々の支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の要望、不安等には相談に応じ、不安の解消に努め、サービス開始時にはご家族、利用者様同意の署名を頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と入居後では状況も変化して行く事も考えられるので、その都度ケアプランを見直し、支援にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の尊厳を尊重し、利用者様が出来ることに着目し、利用者様のペースに合わせた支援、馴染みの関係作りを図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会、外出、外泊の機会を通して利用者様、ご家族、施設との良い関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との信頼関係を崩さない為にも、出来る限り希望には応じています。出来ない時もあります。	以前の仕事仲間がお盆と正月に来所され、利用者も喜んで交流されている。また、散歩がてら馴染みの場所に出かけたり、家族の協力を得てお墓詣りをするなどの支援にも取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースに合わせた支援、レクレーションを通して、利用者様同士が良好な関係が保てる雰囲気作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に退去後の相談、支援を行っている事を説明し、ご家族の依頼、要望に対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人の尊厳を大切にし、生活歴を基に安心して生活して行けるように支援をしています。	郷土料理の話や地図を使って利用者の生活歴を知り、思いや意向、好きなことなどの把握に努められている。利用者個々の性格も見極めながら、あまり難しく考えないで、気軽に声かけ対応をするよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報などを閲覧しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録の情報を共有、現状況を把握できるよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、状況は変化する事もあるので、カンファレンスで意見を出し合い、それをもとに計画作成担当者がケアプランを作成しています。	介護計画には援助方針が細かく具体的に記載され、誰が見てもわかりやすく、現場との連携も図られている。職員も利用者のことをよく理解し、家族の思いも聴きながら、プランへの意見・提案が出されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に連動した記録を行い支援。ケアの際に新たな課題が出て来た時は、カンファレンスで話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じ、通院介助など行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夢ワークでの中学生との交流、町内盆踊りへの参加、パン工場見学など行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医での受診をされている方もいるので定期的に受診をして頂いています。月二回往診医による診察もあります。	家族同行によるかかりつけ医への受診時には、利用者の現況を文書にして正確に伝わるよう取組まれ、受診後は受診結果報告書を記載していただいている。職員が直接医療機関と情報を取り合うこともあり、適切な医療サービスを受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師さんがいない為月二回訪問看護があります。衛生チェックなど行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に、管理者、ケアマネが中心となって行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネが中心となって利用者様の終末期の相談について対応を行っています。	随時話し合いがなされ、利用者・家族の意志と事業所ができる範囲との共有が図られている。また、職員の負担や不安をフォローしながら。最終的ケアのやり方などの検討もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアに緊急マニュアルがあるのでそれをもとに対応を行っています。訓練等はありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は地域消防署と連携して行っています。地震に関しては訓練は行っていないので、訓練の実施をした方が良いと思います。	防災計画の作成とマニュアルの見直しを図られ、「職員の参集可能時間の把握」、「緊急時連絡方法」、「役割分担」などの整備に取り組まれている。また、近隣との協力を得られるよう町内会の防災訓練への参加も検討されている。	災害発生時の近隣との協力は不可欠であり、町内の防災訓練への参加や事業所の避難訓練を運営推進会議と同時に行うなどして、相互協力体制を築かれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の人格は尊重出来ていても、プライバシーの配慮、言葉遣いなど出来ない職員もいる。	個人情報には鍵のついた保管庫に保管し、プライバシーへの気遣いがなされている。また、職員の提案で、自立をしている利用者には、排泄支援時、プライドを尊重した対応方法を検討するなどの取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事と出来ない事もありますので、その際はコミュニケーションにて納得を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状、職員側のペースになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二カ月に一回訪問理美容サービスを行っています。それ以外にも女性利用者様には、本人了解のもと、爪にマニキュアをつけたりもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者様と同じ食事をしています。個々に合わせた食事形態、おしぼり、お盆拭きなどはお手伝いしてもらっています。調理に関しては職員が行っています。	「薬膳料理」や「郷土料理」、「スイーツク」など、食事を楽しむ企画が食材業者と協力し、実施されている。「スイーツク」は運営推進会議の中でも試食等が催おされ、利用者も製作に参加し、「作る喜び」、「食べる喜び」を感じていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては工夫して提供しています。一日の水分摂取量が足りていない利用者様がいますのも現状です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアの実施。歯科往診の際に指導を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	二時間に一回は声かけにて確認しています。その際、強要はせずに行っています。	利用者の羞恥心やプライドに配慮し、声かけや確認は何気なく行い、能力に応じた支援がなされている。自立の利用者には職員が外から見守るなどの気配りにも取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	二日以上便秘の方の場合、下剤を使用する時もあります。乳酸菌飲料なども飲んで貰い便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	三日に一回は入浴できます。その時は気持ちよく入浴を楽しんで貰っています。出来る事はご自身で行って貰います。	湯船に入らせていただくことを基本に、職員2人での支援が行われている。自立の利用者には見守り中心で、また、腰痛などの利用者には日数にこだわらず入浴いただき、足浴などの対応工夫にも取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては個々のパターンもあるので、その都度対応の仕方を変えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は全職員把握に努め、服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いなど、皆で出来るレクリエーションを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調に応じて天気の良い日には施設周辺を散策したりしています。春にはお花見、お正月には近くの神社に初もうでなどに出かけます。	外出の難しい利用者にも外気浴や日向ぼっこの支援がなされている。また、事業所周辺の散歩、道の駅での買い物など日常的に出かけられている。近所の障害者施設の店を訪ねるなど、利用者が楽しんでいただけるよう取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはホームが責任を持って管理しています。自立度の高い利用者様には一カ月決められたお小遣いの範囲で買い物同行などの支援もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、電話支援を行っています。施設内に自由に電話できる所が無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた環境作りをしている。植物や鉢植えなども置いています。	明るく、生活感が感じられる共用空間となっており、利用者が居心地良く過ごされるよう配慮がなされている。キッチンの出入り口では履き物を履き替えたり、清掃が毎日行なわれるなど衛生・環境面での取り組みにも努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファ、たたみスペースがあります。利用者様の席なども定期的に席替え等行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、利用者様に希望を聞き、安全面も考えた居室作りをしている。	家族や花の写真、読書用の机や椅子など、希望に合わせたものが自由に持ち込まれ、思い思いの居室作りがなされている。また、居室の入り口に「○丁目◎番地」の表示をつけることで、自分の部屋として生活できるよう配慮に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下には手すりが設置してあります。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームなのはな

目標達成計画

作成日:平成 26年 3月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を生かした取り組み	定期開催の実行	一昨年度はゼロの開催、昨年度は二回の開催に終わった。今年度は年間スケジュールにそって開催する。	6ヶ月
2	35	災害対策	すでに作成している「なのはな防災計画」をもとに避難訓練の実行。	年間スケジュールにそって実行。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。